

NEWS RELEASE

報道関係者各位

2023年3月30日

株式会社ナガセ

東進ハイスクール・東進衛星予備校

東進調査 2023年 東大現役合格者アンケート

【東大現役合格の鍵】

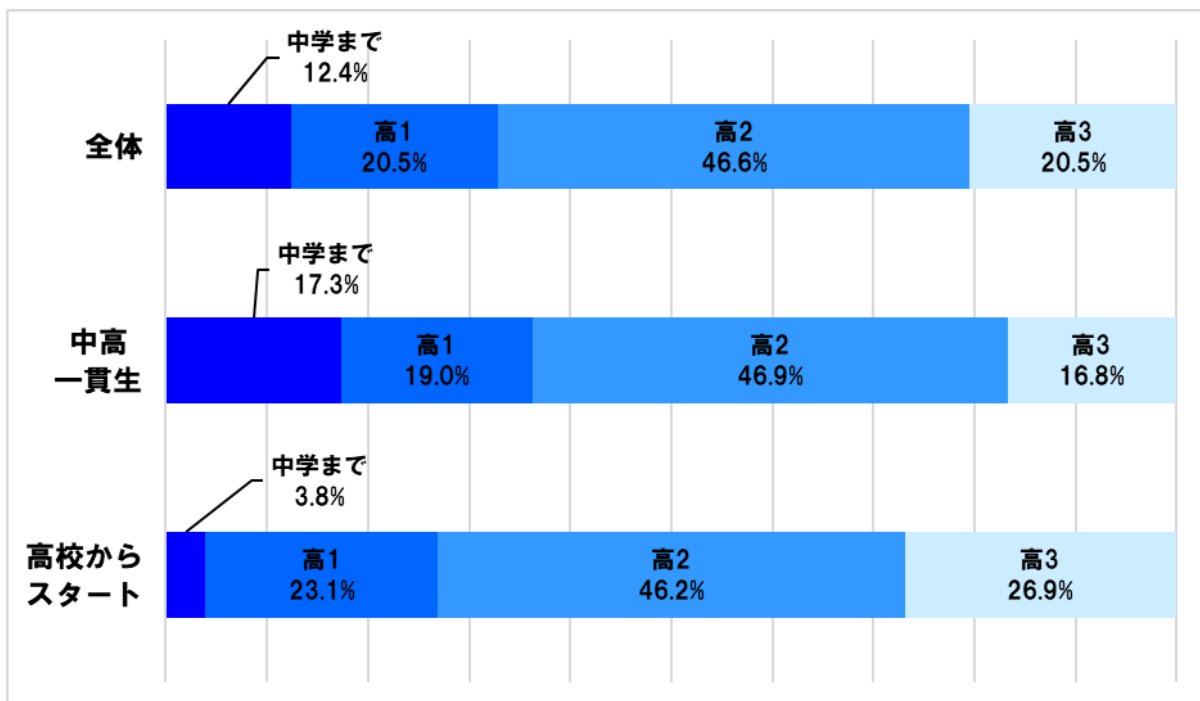
理系合格者の約8割が高2までに 高校数学(数学Ⅲ)を修了

東進ハイスクール・東進衛星予備校(以下、東進)を運営する株式会社ナガセ(本社:東京都武蔵野市 代表取締役社長 永瀬昭幸)は、2023年入試において東大現役合格845名、5年連続800名超を達成しました。この東大現役合格者を対象にアンケート調査を実施した結果の中から、東大現役合格の鍵となる理系現役合格者の高校数学の全範囲修了時期についての調査結果をお知らせします。

東大理系現役合格者の79.5%が、高2のうちに数学全範囲修了

グラフ1は、東大理系現役合格者に高校数学(数学Ⅰ・A、Ⅱ・B、Ⅲ)を全範囲修了した時期を聞いた結果です。これは、あくまで回答者自身が学習し終わったと判断した時期です。最も多いのは高2の46.6%。高2・高1・中学までの3つを合わせると、高2の終わりまでに79.5%の合格者が高校範囲の数学を修了していたことがわかります。

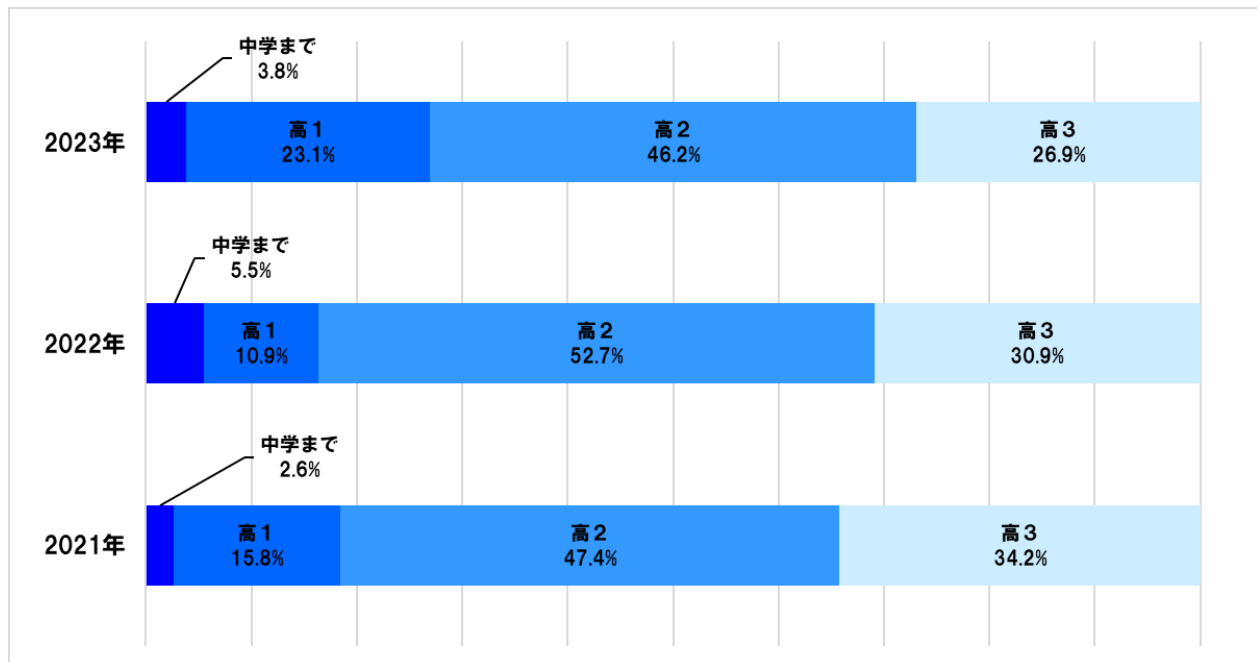
一般的に、中学生のうちに高校範囲の数学の学習がスタートする中高一貫生ではさらに多くの83.2%が高2のうちに高校数学を修了しています。一方で高校入学後に高校数学をスタートして東大現役合格を果たした生徒も、73.1%の生徒が高2までに高校数学を修了していました。多くの合格者が、高校よりも早い進度で自ら先取り学習を行っていたことがわかります。



[グラフ1] 東大理系合格者の高校数学修了時期

高校スタート現役合格者の修了時期は年々早期化

グラフ2は、高校から高校数学の学習をスタートした現役合格者の数学修了時期を2021年からの3年間で比較したものです。高2までに修了した割合は、2021年が65.8%、2022年が69.1%、2023年が73.1%と年々増加しています。特に2023年は高1までに修了した生徒が、26.9%と大きく増えています。2023年の高3生は、高校生活が丸々コロナ禍と重なりました。さまざまな活動ができない中でも、将来に目を向けて目標のために自主的に先取り学習に取り組んでいたと考えられます。



[グラフ2] 高校から高校数学の学習をスタートした現役合格者の数学修了時期3カ年比較

東大現役合格者アンケートについて

2023年東京大学に現役合格した東進生845名(5年連続800名超)のうち、東進東大現役合格祝勝会に参加した生徒を対象にインターネット上で実施。有効回答数473件。東大合格に至るまでの学習について、習い事・読書経験、大学で取り組みたいことや将来の希望について調査・分析を行い、教育コンテンツの開発、改良改善等に活用しています。

東進の高速学習で受験全範囲の早期修了、徹底的な志望校対策が合格のカギ！

毎年、高校別の東大現役合格ランキングでは中高一貫校が上位を占めます。これらの大多数の学校では、先取りで高校範囲を早期に修了し入試対策に多くの時間を割くカリキュラムが組まれています。本アンケートでも、中高一貫生の多くが早期に数学全範囲を修了していました。東進では映像を駆使した高速学習により、やる気次第で学年の壁を超えて中高一貫校よりも速いペースで学習することができます。

実力講師陣によるわかりやすい授業で受験全範囲を早期に修了し、遅くとも高3の夏から過去問演習に取り組み、秋以降は最新のAIと教務力が融合したAI演習講座で志望校対策を徹底的に行うことが、東進の圧倒的な現役合格実績の理由です。

【株式会社ナガセについて】

1976年創立。日本最大の民間教育ネットワークを展開するナガセは「独立自尊の社会・世界に貢献する人財」の育成に取り組んでいます。有名講師陣と最先端の志望校対策で東大現役合格実績日本一の「東進ハイスクール」「東進衛星予備校」、シェアNO.1の『予習シリーズ』と最新のAI学習で中学受験界をリードする「四谷大塚」、早期先取り学習で難関大合格を実現する「東進ハイスクール中学部」「東進中学 NET」、総合型・学校推薦型選抜(AO・推薦入試)合格日本一の「早稲田塾」、幼児から英語で学ぶ力を育む「東進こども英語塾」、メガバンク等の多くの企業研修を担う「東進ビジネススクール」、優れたAI人財の育成を目指す「東進デジタルユニバーシティ」、いつでもどこでもすべての小学生・中学生が最新にして最高の教育を受けられる「東進オンライン学校」など、幼・小・中・高・大・社会人一貫教育体系を構築しています。2022年9月には、幼児～中学生対象の世界標準のプログラミング学習「東進CODE MONKEY」を新たに開講しました。

また、東京五輪個人メドレー2冠の大橋悠依選手をはじめ、のべ47名のオリンピックを輩出する「イトマンスイミングスクール」は、これからも金メダル獲得と日本競泳界のさらなるレベルアップを目指します。

学力だけではなく心知体のバランスのとれた「独立自尊の社会・世界に貢献する人財を育成する」ためにナガセの教育ネットワークは、これからも進化を続けます。

【本件に関する報道関係者の方からのお問い合わせ先】

株式会社ナガセ 広報部 担当：市村(いちむら)、海老根(えびね)

TEL: 0422-44-9001 Mail: pub@toshin.com